

知的障害特別支援学校高等部の作業学習等における  
判断力等の育成：  
学習課題の内容の選定・目標設定と補完行動の獲得  
・定着のための確認表の作成

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-06-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡辺, 明広 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00005678">https://doi.org/10.14945/00005678</a>

## 知的障害特別支援学校高等部の作業学習課題における判断力等の育成

— 学習課題の内容の選定・目標設定と補完行動の獲得・定着のための確認表の作成 —

Training of judgment at work study in the upper secondary department of a school  
for intellectually disabled students

-Selection of contents of study subjects and goal settings/ Making of confirmation lists  
for acquisition and fixation of supplement actions-

渡 辺 明 広

Akihiro WATANABE

（平成22年10月6日受理）

At work study in the upper secondary department of a school for intellectually disabled students, kinds of situation making such as application of supplement means are tried in order for the students to accomplish their work subjects by themselves. On the other hand, problem solving abilities such as judgement are demanded to react to situations of the subjects and each change. To train of judgment, it is needed for students to acquire and settle supplement actions. We made a confirmation list, which shows how to check situations of cleaning, to grasp selection of contents of study subjects which grow judgment and goal setting and to examine the way of support.

### はじめに

（新学習指導要領と課題解決のための判断力等の育成）

平成21年3月告示の特別支援学校高等部学習指導要領は、第1章総則で、「生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技術を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむ」（以下、略）、としている。また、知的障害特別支援学校の教科〔職業〕の目標は、「勤労の意義について理解するとともに、職業生活に必要な能力を高め、実践的な態度を育てる。」ことである。また、主として専門学科において開設される各教科（〔家政〕〔農業〕〔工業〕〔流通・サービス〕〔福祉〕）の目標は、当該教科に関する基礎的・基本的な知識と技能の習得を図り、それらの意義と役割の理解を深めるとともに、関連する職業に必要な能力と実践的な態度を育てることである。<sup>1)</sup> 今回の改訂等によって、生きる力、すなわち、実践的な態度を目指すためには、習得した基礎的・基本的な知識や技能を活用するための思考力や判断力などの育成が重要な課題であることが示された、といえよう。

(補完行動の獲得・定着の必要性)

ところで、各地の教育現場で行われている、職業に関する専門科目や職業科、家庭科を中心に領域や教科を合わせた指導の形態である作業学習では、生徒が一人でできる状況づくりなどの支援の手立てが様々に講じられている。一方で、状況や場が変化する作業学習課題に対応するためには、問題解決能力（理解力、思考力、判断力等。以下、判断力等という）が必要となる。判断力等とは、作業課題に対する指示や要求水準、状況の変化を正確に理解し適切な判断を行い、円滑に課題を遂行できる能力をいう。課題解決にあたっては、できる状況づくりによる、補完手段の活用だけでは不十分で、生徒自身が目視や指さし、読み上げ、復唱などの補完行動を獲得し、定着することが必要である。

また、近年、わが国の産業構造や就業構造の変化に対応するために、特別支援学校の作業学習等においても第三次産業の流通・サービスに関連する作業種目（商品管理、事務、清掃、販売、喫茶サービスなど）が導入されているが、従来の製造・生産業種中心の作業学習（実習）課題とは異なって、「実習内容が多様で、生徒が対応できにくいことが多い」「生徒自身ができばえを評価しにくい」「そのつどの判断を求められることで、生徒には困難なことが多い」といった指摘が指導や支援にあたる教師たちから少なくない。<sup>2)</sup> 状況や場が変化する作業学習課題に求められる、判断力等の育成と支援のあり方の工夫が課題になっている。

では、作業活動を進める各作業種班では、判断力等はどのような学習内容（具体的な作業活動）において、いかなる目標設定のもと、自分で考え、解決する力を身に付けることが求められているのであろうか。このことを吟味することは学習内容の選択・精選を検討する上で重要である。また、指導方法（一人でできる状況づくりや支援の手立てなど）の検討のために必要となる。

## I. 目的

軽度の知的障害生徒を対象とする特別支援学校の指導実践から、判断力等を育てる学習（作業活動）の内容と目標設定を把握し、作業学習（職業教育）や教育課程の全体計画を考える際の資料を得ることを目的とする。また、清掃作業において、生徒が補完行動を獲得するために、清掃した後の状況をチェックする方法を示した、清掃確認表を作成し、判断力等を育てるための支援の方法を検討する。

## II. 方法

参照する実践の場は、S県立S特別支援学校M分校（以下、M分校という）。高等部の普通科のみを置く。軽度の知的障害生徒を対象に、作業学習を中心にした教育課程を編成している（週あたり時数9.6/30単位時間）。入学選考時に所属コース（《流通・サービス》と《産業技能》の2コースのいずれか）の希望を確認し、生徒数の調整がされる。1学年のコースの定員は8、9名。3年間、《流通・サービスコース》の作業学習は清掃、縫製、印刷、介護、喫茶サービスを、《産業技能コース》はエコ平板（セメント加工）、園芸、竹炭、クラフト、竹芸をそれぞれ並行して学習する。

各作業種班の担当教師から、学習内容〈具体的な作業活動〉、判断力等の目標設定、支援の手

立てなどについての聞き取り調査を行った（2008年～2010年）。また、公開授業研究での作業学習指導案を参照した。<sup>3)</sup>

このうち清掃班の清掃作業は、異学年の3、4人で上級生のリーダーを中心としたチームを編成して行うことが多い。生徒は毎回、作業に入る前に作業日誌を記入し、前回できなかったところはどこなのかを振り返り、本時の個人目標を立てる。作業は清掃箇所ごとに清掃の順序を示した「清掃手順表」（補完手段）を携行し、繰り返し行うことで基本的な知識と技術、及び実践的な態度を身に付けている。清掃終了時には生徒同士で振り返り活動を行っている。作業日誌を記入後、担当教師に見せ、反省点の確認やアドバイスをもらう。

### Ⅲ. 判断力等について

判断力等の基礎・基本となるものは知識やスキルである。「判断」は認知的なプロセスである。当該の仕事（作業課題）を遂行するのに必要な知識や基本技能を習得し、経験（反復学習）を積んで、適切に処理する能力（知恵）が判断力等である。適切に処理できるには、判断基準を持つことが必要である。

また、判断を行う際には、作業課題についての情報・判断材料（判断する事項）を集めることが必要である。生徒が一人では情報・判断材料を収集したり、明確に整理できない場合、教師が判断材料を具体的に呈示し、これに対して、生徒は判断基準を持って、「よいーわるい」「ちょうどい」「じゅうぶんでない」などの判断を行う。判断基準が身に付くには多くの判断の機会を経験することが必要である。

なお、判断力の基盤として自己肯定感を持ち、自己決定を繰り返すことが必要である。判断力は生活場面での豊かな体験や様々な学習経験をとおして、育成されるものと考えられる。以上、判断力等の構造を図1に示した。

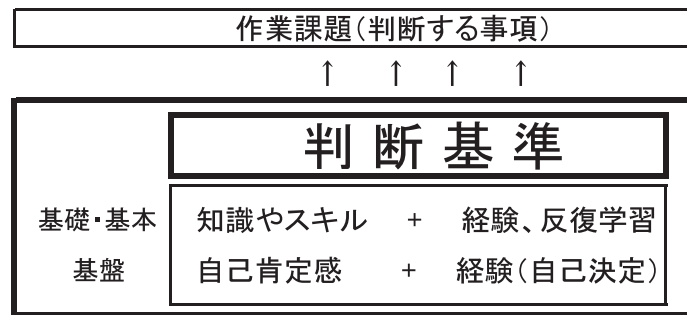


図1 判断力等の構造

### Ⅳ. 作業手順表と作業確認表

#### 1 教示の仕方（作業手順の理解）

作業学習における教示の仕方は、課題分析によって、作業課題を小さな単位に分けて、時系列に沿って並べたり、仕事内容を具体化したり、工程を細分化したりする。これが工程表や作業手順表、指示書等であり、作業活動をスムーズにするための補完手段（環境づくり、補助具等）である。特別支援学校の作業学習では、工程や手順がスモールステップにより細分化され、

また、視覚化された工程表や手順表が呈示される。<sup>4) 5)</sup>

## 2 支援の方法（補完行動の獲得と定着）

職業リハビリテーションにおける就労支援では、「働くために必要なスキル」として、作業遂行能力、コミュニケーションスキル、セルフマネジメントスキルが挙げられている。このうち、セルフマネジメントスキルとは、作業を行う力であり、状況の変化やその場に応じて、どう作業を進めるかの判断が求められる。セルフマネジメントスキルの1つである、セルフモニタリングは、目視や指さし、読み上げ、復唱などの補完行動によって、本人が自分の行った行動を確認しながら、目標となる行動を行う方法である。補完行動を獲得し、定着することによって、セルフマネジメントスキルが高められる。

また、セルフマネジメントスキルであるセルフレインフォースメントは、自分の作業を振り返る、問題点を反省する、次の目標を決める、といった行動で、本人が自分の行った行動の結果にそって、自分の行動に対し報酬や罰を与える方法である。振り返りや自己評価の機会をもつことで培うことが期待される。

さらに、生徒たちの自己チェック後には、支援者（教師）による最終確認が行われるが、これは獲得した補完行動の維持、定着、他場面での般化につながるものである。その際、支援者は、適切にできたら正しくできていること（判断できていること）を即時に伝える。不十分な判断や間違いに対しては、適正な状況（判断基準）を教える。<sup>4) 5) 6)</sup>

## IV. 結果

### 1 判断力等を育てる、作業課題の内容の選定と目標設定

作業活動を進める各作業種班では、判断力等はどうのような作業課題（具体的な作業活動）において、いかなる目標設定のもと、自分で考え、解決する力を身に付けることが求められているのであろうか。このことを吟味することは作業学習の内容の選択・精選を検討する上で重要である。また、指導方法（一人のできる状況づくりや支援の手立てなど）の検討のために必要となる。M分校の各作業班について以下に示す。<sup>3)</sup>

#### 【清掃班】 題材名「教室・トイレ清掃」

（内容—具体的な作業活動）

- ・手順表に沿って自在ぼうきやスクイジーを使い、チーム内で報告や連絡をしあって時間内に清掃を行う。

（判断力等の目標設定）

- ・清掃場所がきれいになったかどうかの確認手段（判断基準とその方法）を自分たちで考え、きれいにする事ができる。
- ・きれいになったかの判断ができる。
- ・一定時間内に作業が終了するように、時間を意識し、効率的な作業の進め方ができる。
- ・道具や方法を選択し、仲間と協力して企画清掃を行うことができる。

（支援の手立て）

- ・清掃手順表（後述）に沿ってやることで、仕事の内容や量を明確にする。
- ・作業日誌に自己評価と他者評価を記入する。

**【印刷班】 題材名「名刺の編集・印刷」**

(内容－具体的な作業活動)

- ・原稿の内容（名前、肩書き、住所）を入力し、見本と照らし合わせて、文字のフォントやポイントの見分けや位置・文字のバランスを総合的に判断する。

(判断力等の目標設定)

- ・原稿の内容を正確に入力する。
- ・文字の大きさ、字体の違いに注目し、判断する。
- ・原稿を見て文面の配置を調整する。
- ・試し刷りをして見本と比較し、mm単位の調整をする。

(支援の手立て)

- ・文字のフォントの大きな見本を掲示する。
- ・製作過程を一覧できるように作業ファイルに貼付する。

**【介護班】 題材名「介護実習（コミュニケーション）」**

(内容－具体的な作業活動)

社会福祉施設で自分から積極的に話しかける場を増やし、利用者（高齢者）とのコミュニケーションを体験する。

(判断力等の目標設定)

- ・自分から積極的に話しかける場を増やす。
- ・その場に適した会話の内容を盛り込んで、相手の気持ちや言動に配慮した行動がとれる。

(支援の手立て)

- ・会話の内容を話し合う機会を設ける。
- ・どうすることが良かったか具体例を挙げて教える。

**【エコ平板班】 題材名「注文平板の製作」**

(内容－具体的な作業活動)

決められたデザインに沿って、廃材（石、タイル、瓦など）を自分で選び、隙間なくモザイク処理を行って、コンクリート板を製作する。

(判断力等の目標設定)

- ・基本の技術（石やタイルの適度な大きさ選び、間隔、石の埋め方）について判断し、製作作業ができる。
- ・時間内にでき上がるように、素材の石、タイルの大きさや色、配置の間隔をその都度、手早く判断し、選択できる。
- ・モルタルの適切な量を判断し、作業活動ができる。

(支援の手立て)

- ・基本のモザイク練習を繰り返すことで原則を再確認する。
- ・同じデザインで同時にいくつもの平板を製作することで、色のバランスやモザイク密度を評価する状況を作る。

〈まとめ〉

- ・判断力等は各作業種の主たる作業活動を遂行する上で重要な能力である。内容は作業種ごとに特性があり、はぐくまれる判断力等には質的な違いがある。効率を考え、決められた時間内に、終わりの見通しをもって作業を行うことや、複数生徒の協業において、協力したり、自分で必要な判断をしながら作業を進めること（セルフマネジメントスキル）もある。「流通・サービス」や「福祉」の作業種ではその都度判断が必要なことが多く、また、できばえを視覚的には処理ができない内容が多い。
- ・目標設定は、総合的な作業活動の遂行の中で、独力で状況や場に応じた対応が求められている。作業活動に即した、判断基準の獲得が求められる。検品表や規格書類を読んで、一定の規格基準によって判断することが求められる。目分量による判断もある。接客では、人の気持ちや言動を配慮した判断が求められる。

## 2 作業手順表の作成

教室清掃の手順は、外部講師（NPO法人職員）からの助言を受け、清掃内容とその手順を示している。生徒たちが最初に取り組む教室清掃とトイレ清掃は、清掃の基本であるが、それ

表1 清掃手順表(教室清掃)

1	清掃道具を準備する。(倉庫からカートを運ぶ。ぞうきん、モップをぬらす)
2	窓を開ける。(風の強い日は少し)
3	机用小ほうきで机の上をはく。
4	イスを机の上に上げ、机を2組に動かす。
5	移動できる物を2組に動かす。
6	黒板用ぞうきんで黒板をふく。黒板ふき、レールをきれいにする。
7	自在ほうきで床の隅(すみ)をはく。隅のゴミをはき出す。
8	ダスターモップで床の隅(すみ)からふき、ゴミを取る。
9	ダスターモップで床を水ぶきする。
10	3から9を行い、2組の清掃をする。
11	机や移動した物を元の位置に戻す。
12	机用ぞうきんで生徒机、教師机、教卓の上をふく。
13	ロッカーの中を整とんし、棚用ぞうきんでふく。
14	ごみ箱をきれいにする。
15	最終点検をする。
16	教師に報告をする。
17	電気を消して、清掃道具を片付ける。

\* この他に、補助手順表として[黒板の手順]、[水道の手順]が用意してある。

表2 清掃手順表(男子トイレ清掃)

1	清掃道具を準備する。(倉庫からカートを運ぶ。白タオルと色タオルをぬらす)
2	トイレ清掃中の机を出す。
3	手袋をはめ、長靴をはく。
4	窓を開ける。
5	サンダルとゴミ箱を廊下に出す。
6	トイレ用ほうきで入口、床をはく。
7	スポンジで洗面台と鏡をみがき、色タオルで洗面台まわりのタイルをふく。
8	便器にトイレ用洗剤をかける。
9	便器用ブラシで便器をでみがく。(大便器→小便器の順)
10	便器、床に水をまき、床を洗剤でみがく。
11	水をまいて洗剤を流し、水を切る。
12	便器用白タオルで便器をふく。
13	色タオルでしきり、便器まわりのタイル、個室の壁をふく。
14	サンダル、ゴミ箱を元の位置に戻す。
15	色タオルで入口の床をふく。
16	手袋をはずし、長靴をぬぐ。
17	トイレットペーパー、石けんを補充する。
18	教師に報告する。
19	電気を消して、清掃道具を片付ける。

\* この他に、補助手順表として[洗面台の手順]、[便器清掃の手順]が用意してある。

ぞれの手順表を表1、表2に示した。基本的に1工程で1つの活動を行う。

階段清掃、廊下清掃については、手順表は用意されていない。教室清掃、トイレ清掃で習得した技術の応用編として捉えられており、手順表がなくても清掃する力も身に付ける機会として考えられている。<sup>7)</sup>

M分校では、清掃の作業種を行うようになって、6年が経過し、担当教師の中では、「手順を追うだけの作業でよいか」という問題意識が起きている。清掃は基本的な手順に示されたこと以外に、その場の状況で臨機応変な対応が求められることが少なくない。汚れている箇所があれば、手順にはなくても、その箇所を集中して作業をする(きれいにすることが)ことが求められていることである。現状では、汚れの箇所や程度に気を配ることができる生徒は少なく、逆に手順に追われて清掃作業を行っている状況である。手順どおりに作業が進めば、イスが机にしっかり収まっていなくても気にしていなかったり、時間内に終わらせようとするあまり、整理整頓や最終確認を疎かにしてしまうことも見られる。そうした「清掃する者としての気配り」といった意識を身に付けるため、どのように支援していったらよいかというのが支援者の課題になっている。<sup>7)</sup>そこで、チェックポイントやチェックの方法を示した清掃確認表が必要になると考える。

### 3 清掃確認表の作成

清掃箇所がきれいになったかどうかを判断し、チェックする具体的方法について、授業で清掃作業を重ねるたびに、生徒が自分たちで考え、書き表した。自己評価と他の生徒のチェックの様子について評価し、意見交換をしあって、また清掃を繰り返して、作り直した(表3、表4)。

表3 清掃確認表(教室清掃)

チェック項目	チェックポイント	チェックの方法
①清掃道具を準備し、手入れをしましたか?	・道具は全部そろっているか	・「教室清掃の道具表」を見て、1つずつそろっているか ・しれ点をつける
	・自在ぼうきのほこりは取れているか ・ぞうきん、モップはぬれているか	・ほうきの両面を指でさわって確かめる ・指でさわって確かめる
②机の上にゴミはありませんか?	・机の上に消しゴムのかすなどないか	・しゃがんで、全部の机に目線を合わせて、見る。手でさわって確かめる
③いすを机の上に上げ、机や物を移動しましたか?	・全部移動できたか	・教室の入り口に立ち、全方向を指さしながら見回す
④黒板はきれいになりましたか?	・黒板に白いあどが残っていないか	・黒板の前に立ち、3か所以上、指さした箇所を見て確かめる
	・磁石などは元通りにきれいに並んでいるか	・黒板の前に立ち、指さして確かめる
⑤自在ぼうきを使って、ゴミはなくなりましたか?	・隅(すみ)にゴミがないか	・4隅(すみ)を歩き、指さして確かめる
⑥ダスターモップを使って、床の上からごみがなくなりましたか?	・ゴミが残っていないか(ターンをした所、ちり取りで取った所)	・教室内を歩きながら、床を5か所以上、指さして確かめる
⑦モップでムラなく床を水ぶきできましたか?	・ふき残しのかわいた所(白い所)がないか	・やりながら、ふき残しがないか見回す ・教室内を歩きながら、床を5か所以上、指さして確かめる
⑧ロッカーの中の整頓ができましたか?	・ファイルや辞書の向きは整っているか	・指さして確かめる
	・ほこりやゴミはないか	・指でさわって確かめる
	・物が元の位置に置いてあるか	・指さして確かめる
⑨机や移動した物は元の位置にもどしましたか?	・机の位置は元の位置にもどしたか	・「教室配置図」のとおりになっているか、1つずつしれ点をつける
	・物が元の位置に置いてあるか	
⑩机の上はきれいにふきましたか?	・机の上に消しゴムのかすやほこりがないか	・ふきながら、ふき残しがないか見て確かめる
	・ふき残しやふきムラはないか	・机1つずつ、指でさわって確かめる
⑪ゴミ箱はきれいになりましたか?	・4つとも中にゴミが残っていないか	・4つの箱ごと、指さして確かめる
	・ゴミ箱の中にビニール袋がついているか	
⑫使用した清掃道具は手入れをして片付けましたか?	・ぞうきん、モップはしっかりしぼれているか	・1つずつ、手でさわって見て確かめる
	・自在ぼうきにほこりがついていないか	
	・ちり取りの中にゴミはないか	
	・カートの中の正しい位置にしまったか	
⑬最終確認はできましたか?	・清掃手順表と清掃確認表ははずしたか	・指さして確かめる
	・電気は消したか	



表4 清掃確認表(男子トイレ清掃)

チェック項目	チェックポイント	チェックの方法
①清掃道具を準備し、手入れをしましたか？	・道具は全部そろっているか	・「男子トイレ清掃の道具表」を見て、1つずつそろっているか ・点をつける
	・白タオルと色タオルの枚数はそろっているか	・3枚ずつあるか、数えて確かめる
	・白タオルと色タオルはぬれているか	・指でさわって確かめる
②トイレの入り口や床はきれいになりましたか？	・ゴミや汚れははかないか。水びたしではないか	・入り口に立ち、指さして確かめる。トイレの中を歩いて、床を5か所以上指さして確かめる。個室の中も指さして確かめる
	・洗面台はよごれた所がないか	・洗面台と鏡をぐるっと指さしながら見て、確かめる。
③洗面台と鏡はきれいになりましたか？	・鏡によごれやくもりはないか	・水滴が付いてないか、確かめる
	・洗面台はよごれた所がないか	・洗面台と鏡をぐるっと指さしながら見て、確かめる。
④便器はきれいになりましたか？	・大便器に汚れ(や黄ばみ)が残っていないか	・便器を1つずつ、指さして確かめる
	・小便器に汚れ(や黄ばみ)が残っていないか	・きれいになっている便器の写真と見比べる
⑤サンダルやゴミ箱は元の位置にもどしましたか？	・サンダルが元の位置に置いてあるか。きちんと並べてあるか	・指さして確かめる
	・ゴミ箱は元の位置に置いてあるか	・指さして確かめる
⑥ゴミ箱はきれいになりましたか？	・ゴミ箱の中にゴミが残っていないか	・指さして確かめる
	・ゴミ箱の中にビニール袋がついているか	・指さして確かめる
⑦トイレペーパー、石けんは補充しましたか？	・個室にトイレペーパーはあるか	・指さして確かめる
	・洗面台近くに石けんはあるか	・指さして確かめる
	・トイレペーパーの予備はあるか	・トイレペーパーが3ロールあるか、数える
⑧使用した清掃道具は手入れをして片付けましたか？	・ぞうきん、白タオル、色タオルはしっかりほれているか	・1つずつ、手でさわって見て確かめる
	・トイレ用ほうきにゴミなどが付いてないか	
	・ブラシやスポンジは水が切れてあるか	
	・カートの中の正しい位置にしまえたか	
⑨最終確認はできましたか？	・清掃手順表と清掃確認表ははずしたか	・指さして確かめる
	・電気は消したか	

この清掃確認表には、手順ごとの確認すべきポイントと点検するための具体的方法が示されている。チェックポイントは手順ごとに、清掃前や清掃後に確認・点検すべき事項で、チェックの方法は、確認・点検をするための補完行動である。判断を正しく行うための工夫点として、一定の場所に立ち、指や手でさわって確かめる、指さして目視する、目線に合わせる、などの感覚に訴える具体的動作を行うことや、決められた回数分、その動作を繰り返すこと、を生徒に考えさせることにした。

実践期間はまだ短いですが、この清掃確認表を使うことで、補完行動を獲得し、定着するにつれ、どこまでできるとききれいになったかを理解することができるようになってきている。生徒同士の振り返り活動では、清掃手順でうまくいかなかった点を挙げ、改善点を考える話し合いができてきた。支援者は生徒からの報告を受け、確認や必要があれば、助言をし、判断に対する評価を与えている。

## V. 考察

(内容の選定、目標の設定)

新学習指導要領では、言語活動を基盤として思考力、判断力等を確実にほぐすことが重要視されている。「流通・サービス」や「福祉」の作業種では、対人業務でのコミュニケーション能力の育成が重要となる。これは職業教育やキャリア発達を考える上で重要な内容である。

高等部の3年間をとらして職業教育や教育課程の全体計画において、系統性や発展性のある内容や思考力・判断力の目標設定をすることが必要である。また、指導方法(支援の手立て)も含めての検討が必要である。

(生徒同士の振り返り活動)

補完行動を獲得するための指針として、チェックポイントの呈示(補完手段)が必要である。指さし、目視、読み上げといったチェックの方法の他に、具体的な確認動作を定着させることが

必要であるが、生徒同士の振り返り活動が有効である。生徒の実態に応じ、支援者の段階的な指示の与え方が必要になる。こうして、補完行動を身に付け、自己評価と他者からの評価を受け入れることの繰り返して、判断基準が身に付くものとする。

(キャリア発達の視点から)

作業学習課題における判断力等の育成には、生徒による目標設定、情報・判断材料の収集と活用、協力・共同、役割の理解と実行、選択(決定、責任)、振り返り、自己評価などの学習活動が関連するが、国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2002)が「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」で発表したキャリア発達にかかわる4つの諸能力や、国立特別支援教育総合研究所(2008)が知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段階・内容表」で示した、育てたい力(観点)と関連が深いことが示唆される。判断力等を育成することは職業観・勤労観の育成につながるという意義がある。状況や場の変化についての作業学習課題を積極的に取り上げたい。喫茶・サービスや介護といった接客応対や対人関係業務における、場に応じた言動がとれるための判断力等も必要である。<sup>8) 9)</sup>

(今後の課題)

今後は時間内に清掃作業を終えるよう、生徒がお互いに言葉を掛け合って進めたり、より主体的に活動できる課題の設定も必要である。

## 謝 辞

本研究を進めるにあたり、資料の提供、聞き取り調査などにご協力いただいたM分校の先生方に深謝いたします。

## 文献 参考資料

- 1) 文部科学省 (2009) 特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領 71-203.
- 2) 渡辺明広 (2009) 知的障害高等特別支援学校(特別支援学校高等部)における「流通・サービス」の実施状況についての調査研究, 特殊教育学研究 47 (1), 23-35.
- 3) 静岡県立静岡北特別支援学校南の丘分校 (2010) 公開授業研究会 研修のまとめ(研修テーマ 働くことに喜びを感じ、主体的に活動する生徒を育てるために) 31ページ
- 4) 独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構 障害者職業総合センター (2004) 精神障害者等を中心とする職業リハビリテーション技法に関する総合的研究(最終報告書) 調査研究報告書NO. 57
- 5) 独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構 障害者職業総合センター (2008) 職場適応促進のためのトータルパッケージ ワークサンプル幕張版 実施マニュアルー理論編ー 6-23.
- 6) 静岡大学教育学部附属特別支援学校 (2008) 特別支援学校は今! ~一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくりとセンター的機能の実際~ 84-119.
- 7) 全国特別支援学校知的障害教育校長会キャリアトレーニング編集委員会編著(2008) キャリアトレーニング事例集I (ビルクリーニング編) ジアース教育新社 67-88.
- 8) 渡辺明広 (2010) 特別支援学校(軽度知的障害)高等部の作業学習における、作業分担を決める話し合い活動や目標設定、自己評価や振り返り等の学習内容・活動の意義ーキャ

リア発達の視点から，日本職業リハビリテーション学会第38回神奈川大会プログラム・抄録集 164-165.

- 9) 渡辺明広 (2010) 特別支援学校 (知的障害) 高等部における、キャリア発達の目標設定を加えた、個別の指導計画の作成，日本発達障害学会第45回研究大会発表論文集 260-261.